

2021 年度 入学試験問題

作文

(グローバル入試)

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図があったら、解答用紙を取り出して受験番号と氏名を記入しなさい。QRコードシールをはる必要はありません。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は自由に使って構いません。
5. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

東京都市大学付属中学校



○次の文章は、第69回「全国小・中学校作文コンクール」文部科学大臣賞受賞作品です。全体をよく読んで、あなたが感じたことを自由に書きなさい。字数は自由です。

「永菜ね、発達障害で感覚過敏があるみたいだよ」

去年の夏、母は私に言った。永菜は妹だ。その時5歳になる少し前だった。たしかに妹はちよつと変わっていた。家族で花火を見てみると、ガタガタとふるえてパニックになった。呼んでいるのに返事をしてくれない。レストランに行くとおいで吐く。自分の気持ちを話すのがにが手で保育園でお友達とよくケンカになった。

ある日、母にこれ聴いてみてと言われた。数字を読む女の人の声はいろんな話し声、駅のアナウンス、足音にかき消され、ほとんど聞こえなかった。母は言った。「永菜にはこう聞こえるの。無ししているわけではないんだよ」

音が苦手な妹に母は防音ヘッドホンを買った。妹に笑顔がふえた。洗たくの時、妹の服は母と一緒にだった。「不安になったら、においをかいでごらん。ママのにおいがするから」。それから妹は服のにおいをかぐ事が多くなった。

私は一度妹に「そんな事もできないの」と言ってしまった。母にもものすごくしかられた。「待つてあげる事は手を差し伸べているのと同じ。自分の物差しで人を見るな！」

母が妹の病院でかんごしさんと話しているとき、母の目から涙が一つぶ、一つぶと流れた。私を見てはいけないものを見た気がして気付かないふりをした。その時、かんごしさんが言ってくれた。「お母さんはよくやっているよ。みんなステキに育っているじゃない」。母も悩み、苦しんでいた。でもこうして分かってくれる人がいる事が私が何より安心出来たことだった。

母は「一番つらいのは永菜だから」と、妹が生活しやすくなることだけを考えていた。

感覚過敏の子は愛情不足とか、しつけが悪いとか言われる事が多い。でも私は母がそうだとは思わない。そうだったら妹はいまだに病院にいく事もなく苦しんでいたのではないかと思うからだ。

だれだって（自分は）普通だと思っている。でも普通には基準がない。自分が出来るから相手も出来るわけではない。それが母の言う「自分の物差しで人を見てはいけない」という事だ。

病院の先生もほめてくれた。先生が母に言った。「おたくの子供たちはすごいなあ。お母さん、あなたがすごいよ」。こうして支えてくれる人たちがいるからこそ、母は妹に向き合えているのだ。

今日も妹は母と手をつなぎ、ピンクのヘッドホンを着けて保育園に向かう。来春、私は1年生になった妹と母のかわりに手をつないで学校に一しょに向かう。お母さん、学校は大丈夫だよ。だって私が一しょにいるんだから。

「それぞれのものさし」 岩手県・盛岡市立桜城小4年 山田結心

(2019年12月3日読売新聞朝刊)

